

乳幼児期サービスの国家的なネットワークを確立し維持することを奨励する、確固たる社会的・経済的・教育的な論拠がある。そのなかには、第一線の経済学者や機関など (ESO/Swedish Finance Ministry Report [スウェーデン財務省レポート], 1999; Sen, 1999; Urrutia, 1999; Van der Gaag, 2002; Vandell and Wolfe, 2000; Verry, 2000; Heckman and Carneiro, 2002; NEPI, 2004) の研究も含まれている。こうした乳幼児期サービスを確立することによって、多数の雇用が創出され、税収入が増え、その後の教育面や社会面の支出が著しく節減される。ただしそのための条件は、子ども、特にリスクの高い養育環境に育つ子どもに、人生の十分早い時期に適切な発達の機会が与えられ、配慮の行き届いた学業プログラムが初等・中等教育を通じて継続されるということである。近年、OECD (2005) は、幼児教育の年数とその後の学業成績の間に相関関係があることを示した。

しかしながら、ここでは提供される乳幼児期サービスの「質」の問題がきわめて重要である (たとえば, Sylva 他, 2003; Vandell, 2004 を参照)。以下はアメリカ全国研究協議会・医学研究所 (United States National Research Council and Institute of Medicine) (Shonkoff and Phillips, 2000) の「神経細胞から隣接領域へ：乳幼児期の発達の科学 (From Neurons to Neighborhood: The Science of Early Childhood Development)」からの要約である。これは、チャイルドケアの質がもたらす効果のアセスメントを行い、その主要な特徴をいくつか明らかにした。このアセスメントは、幅広い分野の最近の研究成果の批判的な検証に基づいている。

「チャイルドケアの質と、これまで研究されてきた子どもの実質的な発達のすべての側面の間に正の相関関係があるということは、発達科学の諸研究成果のなかでも最も一貫していることの1つである。質の悪いチャイルドケアはより貧弱な発達の結果と結びつくし、質の高いケアはすべての親が子どもに望む結果、すなわち大人と協働することから物事を率先して始める能力、仲間と積極的にやりとりする能力、さらには早期の数的能力や読解力につながる。……チャイルドケア提供者が安定しているということは、乳幼児の社会性の発達にとって特に重要である。この結びつきはもとをたどれば、幼児とより安定したケア提供者の間に形成される愛着に帰することのできる性質のものである。認知面や言語面の結果に関しては、チャイルドケアを提供する人が創り出す言語環境が、ケアのなかでとても重要な側面であろう」 (Shonkoff and Phillips, 2000, pp.313-314)

サービスに十分な投資が行われない場合の結果についてもまた検討されうる。国が強力な投資とこの分野に対する舵取りを行わない場合は、サービスはそれを最も必要とする人々に十分に行き渡らない。それは、特別な支援を有する子どもや学習上に困難を抱える子どもを増加させ、貧困家庭に不公平をもたらし、全体的に整備の質を落とすことになる。

しかし同時に、たとえ最高のプログラムであろうと、乳幼児期プログラムは個人的な成功や社会的平等を保障するものだと期待するのは無理である。乳幼児期は人生の重要な一段階ではあるものの、人生の輝かしい出発が、貧弱な小学校教育や家庭の機能不全、問題の多い地域社会、社会や雇用上の偏見によって、あっという間に光を失うこともあるのである。要するに、ECECを、社会的な観点から、個人・経済・社会の結果を支配する複雑な相互連関システムのなかの小さいが重要な1つの変数として見るほうが、より現実的であろう。